

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="button" value="Print/Save Selected"/>	<input type="button" value="Send Results"/>	<input type="button" value="Display Selected"/>	Format
				<input type="checkbox"/> Free	<input type="checkbox"/>

1. 1/5/1

012108528

WPI Acc No: 1998-525440/199845

XRAM Acc No: C98-158017

Aromatic composition for treating hair - comprises hydrogen peroxide and aromatic compound stable against hydrogen peroxide

Patent Assignee: OGAWA KORYO KK (OGAW-N); SUNSTAR CHEM IND CO LTD (SUNZ)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 10231234	A	19980902	JP 9737526	A	19970221	199845 B

Priority Applications (No Type Date): JP 9737526 A 19970221

Patent Details:

Patent No	Kind	Lat Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 10231234	A	8	A61K-007/06	

Abstract (Basic): JP 10231234 A

Aromatic composition for treating hair, comprises hydrogen peroxide and aromatic compound stable against hydrogen peroxide, the composition having pH of 1.5 to 5.

ADVANTAGE - Aroma can be kept for a long time.

Dwg. 0/0

Title Terms: AROMATIC; COMPOSITION; TREAT; HAIR; COMPRISE; HYDROGEN; PEROXIDE; AROMATIC; COMPOUND; STABILISED; HYDROGEN; PEROXIDE

Derwent Class: D21; E14; E17; E36

International Patent Class (Main): A61K-007/06

International Patent Class (Additional): A61K-007/13; A61K-007/46; C01B-015/01

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2002 Thomson Derwent. All rights reserved.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="button" value="Print/Save Selected"/>	<input type="button" value="Send Results"/>	<input type="button" value="Display Selected"/>	Format
				<input type="checkbox"/> Free	<input type="checkbox"/>

© 2002 The Dialog Corporation

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-231234

(43) 公開日 平成10年(1998)9月2日

(51) Int. Cl. ⁶
 A61K 7/06
 7/13
 // A61K 7/46
 C01B 15/01

識別記号
 (B)20201020278


F I
 A61K 7/06
 7/13
 7/46
 C01B 15/01

Z

審査請求 未請求 請求項の数 1 ○ L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平9-37526
 (22) 出願日 平成9年(1997)2月21日

(71) 出願人 591011410
 小川香料株式会社
 東京都中央区日本橋本町4丁目1番11号
 (71) 出願人 000106324
 サンスター株式会社
 大阪府高槻市朝日町3番1号
 (72) 発明者 平山 潔
 千葉県八千代市八千代台西9-23 ドエル
 八千代台2-205
 (72) 発明者 宮戸 義明
 埼玉県川口市安行領根岸2813-2
 (74) 代理人 弁理士 青山 葵 (外1名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】芳香性毛髪処理剤組成物

(57) 【要約】

【課題】 組成物中に過酸化水素を含有しても、長期にわたって安定な芳香性を有する毛髪処理剤組成物を提供する。

【解決手段】 過酸化水素と特定の単品香料および/または調合香料とを含有し、特定のpH域である毛髪処理剤組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (1) 過酸化水素と、(2) 過酸化水素に安定な香気性化合物から選ばれた1種または2種以上の単品香料あるいは調合香料とを含有し、pHが1.5～5であることを特徴とする毛髪処理剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、頭髪用染毛剤などに用いられる、過酸化水素および特定の香気性化合物を含有する毛髪処理剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】過酸化水素を含有する毛髪処理剤組成物は酸化力に優れ、メラニン色素を分解させる脱色効果も合わせて有していることから、例えば、酸化染毛剤、脱色剤、脱染剤としてその有用性が知られている。一方、通常の毛髪処理剤組成物は原料臭をカバーし、また嗜好性を高めるために香料を配合しており、芳香を有している。しかし、通常用いられる香料を過酸化水素を含有する毛髪処理剤組成物に配合した場合、過酸化水素によって分解され、経日で芳香を失ったり、あるいは悪臭を放ったりするようになり、安定性が悪いという問題があつた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、過酸化水素を配合し、染毛または脱色効果に優れ、しかも、経日で製剤中において安定な芳香を有する毛髪処理剤組成物を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、かかる毛髪処理剤組成物を得るため、鋭意検討を重ねた結果、過酸化水素および特定の過酸化水素に安定な香気性化合物を配合することにより、所望の性質を有する組成物が得られ、前記課題を解決できることを見い出し、本発明を完成するに至った。すなわち、本発明は、(1) 過酸化水素と、(2) 過酸化水素に安定な香気性化合物から選ばれた1種または2種以上の単品香料あるいは調合香料とを含有し、pHが1.5～5であることを特徴とする毛髪処理剤組成物を提供するものである。

【0005】

【発明の実施の形態】通常用いられる香料を過酸化水素を含有する毛髪処理剤組成物に配合した場合、経時で安定な芳香を得ることは不可能である。本発明の毛髪処理剤組成物において、特定の香気性化合物を配合した場合、過酸化水素を含有し、しかも、経日で芳香を損なうことがない安定な薬剤を得ることが可能である。

【0006】本発明で用いる過酸化水素は、例えば、酸化染毛剤においては、メラニンを分解して毛髪を脱色させるとともに、毛髪中に浸透した酸化染料を重合させる酸化作用を有し、通常の化粧品原料として用いられるものである。この過酸化水素は、目的とする効果を奏する

量適宜含まれるが、通常組成物全量に対して、0.1～6重量%含まれる。

【0007】本発明で用いる香気性化合物は、過酸化水素を含有する毛髪処理剤組成物中において経日で過酸化水素の安定性を損なわず、かつ香料の構造自体およびその芳香も著しく変化しない安定なものを慎重に選択する必要がある。また、実際の製剤化の上では、このようにして選択された香気性化合物の中から、嗜好性に合わせて芳香性を考慮し、数種類を組み合わせて調合香料とする場合が多い。これらの香気性化合物としては、例えば、フェニルアセトアルデヒド、ジメチルアセタール、2,6-ジメチル-2-ヘプタノール、3-メチル-5-フェニル-1-ペンタノール、2-(5,6,6-トリメチル-2-ノルボルニル)-シクロヘキサン-1-オール、3,7-ジメチルオクタン-3-オール、2,6-ジメチル-2-オクタノール、3,7-ジメチルオクタン-3-オールと2,6-ジメチルオクタン-2-オールの混合物、2-メチルウンデカナール、2-ベンチル-3-フェニル-2-プロペナール、4-(4-ヒドロキシ-4-メチル-1-ペンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルバアルデヒド、フェニルアセトアルデヒド、1,3,4,6,7,8-ヘキサヒドロ-4,6,6,7,8,8-ヘキサメチルシクロペンタ-γ-2-ベンゾピラン、ジフェニルエーテル、アリル-2-(2-メチルブチロキシ)アセテートとアリル-2-(3-メチルブチロキシ)アセテートの混合物、エチルイソープチレト、メチル-2-オクチノエート、イソボルニルアセテート、メチル-2-ノニノエート、セドリルメチルケトン、4-(2,6,6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-3-ブテン-2-オン、ヘキサヒドロ-1,1,5,5-テトラメチル-2H-2,4A-メタノナフタレン-8-オン、6-アセチル-1,1,2,4,4,7-ヘキサメチルテトラリン、γ-デカラクトン、γ-ウンデカラクトン、2-メトキシ-4-アリルフェノール、n-デシルアルデヒド、n-オクチルアルデヒド、2-メチル-3-(4-イソ-プロピルフェニル)プロパナール、2-ヘキシル-3-フェニル-2-ブロペナール、3a,6,6,9a-テトラメチルドデカヒドロナフト[2,1-b]フラン、3,7-ジメチル-6-オクテン-1-イルアセテート、メチル(3-オキソ-2-ベンチルシクロペンチル)アセテート、3a,4,5,6,7,7a-ヘキサヒドロ-4,7-メタノインデン-5(または6)-イルアセテート、1-フェニルエチルアセテート、1-(2,6,6-トリメチル-1,3-シクロヘキサン-1-イル)-2-ブテン-1-オン、1-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン、1-(2,6,6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン、4-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-3-ブテン-

3
 2-オン、7-アセチル-1,2,3,4,5,6,7,8-
 オクタヒドロ-1,1,6,7-テトラメチルナフタレン、4-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-3-メチル-3-ブテン-2-オン、2-フェニルエチル アルコール、2H-1-ベンゾピラシン-2-オン、2,3-ベンゾピロール、cis-3-ヘキセノール、3,7-ジメチル-6-オクテン-1-オール、2,6-ジメチル-7-オクテン-2-オール、3,7-ジメチル-trans-2,6-オクタジエン-1-オール、3,7-ジメチル-1,6-オクタジエン-3-オール、1-p-メンタン-8-オール、n-ウンデシルアルデヒド、10-ウンデセン-1-アール、n-ドデシルアルデヒド、n-ノニルアルデヒド、2-メチル-3-(3,4-メチレンジオキシフェニル) プロパナール、2,4-ジメチル-3-シクロヘキセン-1-カルバアルデヒド、2-メチル-3-(4-tert-ブチルフェニル) プロパナール、4-ヒドロキシ-3-メトキシベンズアルデヒド、ベンジルアセテート、cis-3-ヘキセニル アセテート、1-フェニル-2-メチル-2-プロピル アセテート、エチル プチレート、3a,4,5,6,7,7a-ヘキサヒドロ-4,7-メタノインデン-5(または6)-イル プロピオネート、3,7-ジメチル-1,6-オクタジエン-3-イル アセテートから選ばれる1種または2種以上であるが、その中でも、フェニルアセトアルデヒド ジメチル アセタール、2,6-ジメチル-2-ヘプタノール、3-メチル-5-フェニル-1-ベンタノール、2-(5,6,6-トリメチル-2-ノルボルニル)-シクロヘキサノール、3,7-ジメチルオクタン-3-オール、2,6-ジメチル-2-オクタノール、3,7-ジメチルオクタン-3-オールと2,6-ジメチルオクタン-2-オールの混合物、2-メチルウンデカナール、2-ベンチル-3-フェニル-2-プロペナール、4-(4-ヒドロキシ-4-メチル-ベンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルバアルデヒド、フェニルアセトアルデヒド、1,3,4,6,7,8-ヘキサヒドロ-4,6,6,7,8,8-ヘキサメチルシクロベンタ- γ -2-ベンゾピラン、ジフェニル エーテル、アリル2-(2-メチルブチロキシ) アセテートとアリル2-(3-メチルブチロキシ) アセテートの混合物、エチル イソ-ブチレート、メチル 2-オクチノエート、イソ ボルニル アセテート、メチル2-ノニノエート、セドリル メチル ケトン、4-(2,6,6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-3-ブテン-2-オン、ヘキサヒドロ-1,1,5,5-テトラメチル-2H-2,4A-メタノナフタレン-8-オン、6-アセチル-1,1,2,4,4,7-ヘキサメチルテトラリン、 γ -デカラクトン、 γ -ウンデカラクトン、2-メトキシ-4-アリルフェノール、n-デシルアルデヒド、n-オクチルアルデヒド、2-メチル-3-(4-

イソ-プロピルフェニル) プロパナール、2-ヘキシリ-3-フェニル-2-プロペナール、3 α ,6,6,9 α -テトラメチルドデカヒドロナフト[2,1-b]フラン、3,7-ジメチル-6-オクテン-1-イル アセテート、メチル (3-オキソ-2-ベンチルシクロベンチル) アセテート、3a,4,5,6,7,7a-ヘキサヒドロ-4,7-メタノインデン-5(または6)-イル アセテート、1-フェニルエチル アセテート、1-(2,6,6-トリメチル-1,3-シクロヘキサジエン-1-イル)-2-ブテン-1-オン、1-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン、4-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-3-ブテン-2-オン、7-アセチル-1,2,3,4,5,6,7,8-オクタヒドロ-1,1,6,7-テトラメチルナフタレン、4-(2,6,6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル)-3-メチル-3-ブテン-2-オン、2-フェニルエチル アルコール、2H-1-ベンゾピラシン-2-オン、2,3-ベンゾピロールが好ましい。

【0008】このようにして選ばれた香気性化合物からなる単品香料あるいは調合香料の配合量としては、芳香性の点から、組成物全量に対して0.001~6重量%の範囲で用いることが好ましく、0.01~1重量%が特に好ましい。また、香調や嗜好性に合わせて、安定性を損なわない限り、上記以外の香料を組み合わせてもよい。

【0009】本発明の毛髪処理剤組成物のpHは、1.5~5、好ましくは2.5~4.5であり、該pHが1.5未満であると皮膚刺激などの安全性より、5を超えると過酸化水素の安定性が悪くなることより好ましくない。該組成物を好適なpHに調整するには酸を用いる。この酸としては、例えば、塩酸、硫酸、リン酸、硝酸等の無機酸、あるいは、酢酸、クエン酸、酒石酸、プロピオン酸、乳酸、サリチル酸、グリコール酸、コハク酸、リンゴ酸、酪酸等の有機酸等が挙げられ、このうちの1種または2種以上を任意に用いることができ、中でも塩酸、硫酸、リン酸、酢酸、プロピオン酸、乳酸、サリチル酸、グリコール酸、コハク酸が好ましく、特に、リン酸、乳酸、酢酸、グリコール酸は染毛性を顕著に向上させるため好ましい。また、これらの酸のアルカリ金属塩等、例えばクエン酸ナトリウム、水酸化ナトリウム、リン酸水素二ナトリウム、水酸化カリウム等を組合せることにより、好適なpHの範囲内にpH緩衝能をもたせることもできる。

【0010】本発明の組成物は、ジェル状、ペースト状、クリーム状など種々の形態にすることでき、それぞれの形態に応じて本発明の効果を損なわない範囲で、例えば、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、非

5

イオン界面活性剤、両性界面活性剤等の界面活性剤；芳香族アルコール、高級アルコール、多価アルコール、高級脂肪酸、パラフィンワックス、炭化水素油、エスチル油、シリコーン油等の油剤；揮発性溶剤、高分子、防腐剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、金属キレート剤および染料等の公知の化粧品成分を適宜配合し、自体公知の製法で、例えば、酸化染毛料、脱色料、脱染料、酸化染毛料とすることができる。

【0011】本発明の毛髪処理剤組成物を使用するには、通常、毛髪に適量を適用した後、シャンプー等で洗髪するか、または自然乾燥やドライヤー等で乾燥させて使用する。特に、本発明の組成物は、その適用前、適用時または適用後のいずれかで、毛髪に加温処理を施すと、その脱色性、染毛性がより向上するので好ましい。この加温処理例として、本発明の組成物を毛髪に塗布した後、例えば、スチーマー、蒸しタオルなどの蒸気、ドライヤーの温風、遠赤外線などの熱で塗布部を加温し、ついで、余分な組成物を洗い流すか、洗い流さないでそのまま乾燥させることにより行うことができる。加温処理は、通常、40～90℃、30秒～30分が適当である。また、加温した組成物を適用することによっても同様な効果が得られる。

【0012】

【実施例】以下に実験例を挙げて本発明をさらに詳しく説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。また、実施例中の「%」は特に断わらない限り重量%を意味する。

【0013】実施例1の成分からジェル状の毛髪処理剤組成物を製造し、以下の方法で種々評価した。

【0014】実施例1

ジェル状酸性染毛料

成 分	配合量 (%)
黒色401号	0.5
ベンジルアルコール	5
キサンタンガム	3
エタノール	5
過酸化水素	4
フェナセチン	0.5
pH調整剤	適 量
香料成分	0.1
精製水	残 部
合計	100.00
pH	3.0

実施例1を香料成分として香気性化合物から選択し、処方に従って調製した後、下記に示す方法で評価した。

【0015】実験例1

香料安定性試験

各香料成分を用いて実施例1を調製し、それを3つに分け、30mlガラス瓶に入れ、それぞれ室温、50℃、5℃恒温槽にそれぞれ保存し、12週後に取り出して、室温に戻し、変臭を官能試験で調べた。官能試験は専門調香士が実施した。評価基準を下に示す。

◎：調製直後の芳香とほぼ変化なし

○：調製直後の芳香と比較してやや変臭した

×：調製直後の芳香と比較して、変臭あるいは退臭したその結果を表1～4に示す。

【0016】

【表1】

香気性化合物	安定性評価
2-エニルアセトアリドヒドロメチルアセタール	○
2, 6-ジメチル-2-ヘプタノール	○
3-メチル-5-フェニル-1-ヘンタノール	○
2-(5, 6, 6-トリメチル-2-ノルボルニル)-シクロヘキサノール	○
3, 7-ジメチルオクタン-3-オール	○
2, 6-ジメチル-2-オクタノール	○
3, 7-ジメチルオクタン-3-オールと2, 6-ジメチルオクタン-2-オールの混合物	○
2-ステルカノンデカナール	○
2-ベンズル-3-フェニル-2-ブロヘナール	○
4-(4-ヒドロキシ-4-メチル-ヘンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルボアクリルヒドロキシ	○
フェニルアセトアリドヒドロメチルアセタール	○
1, 3, 4, 6, 7, 8-ヘキサヒドロ-4, 6, 6, 7, 8, 8-ヘキサメチルシクロヘンタ-2-ヘンツォビラン	○
ジフェニルエーテル	○
アリル-2-(2-メチルブロキシ)アセテートとアリル-2-(3-メチルブロキシ)アセテートの混合物	○
エチルイソフタリート	○
メチル-2-オクタノエート	○
イソブチルアセテート	○
メチル-2-ノニエート	○
セドリルメチルケトン	○

【0017】

【表2】

香気性化合物	安定性評価
4-[2, 6, 6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル]-3-ブ'テン-2-オン	○
ヘキサヒドロ-1, 1, 5, 5-テトラメチル-2H-2, 4A-メタノナフタレン-8-オン	○
6-アセチル-1, 1, 2, 4, 4, 7-ヘキサメチルテトラリン	○
γ-ヘンデカラクトン	○
γ-ウンデカラクトン	○
2-メトキシ-4-アリルフェノール	○
β-デ'シルアルデヒド'	○
β-オキチルアルデヒド'	○
2-メチル-3-(4-イソ-ブロピルフェニル)ブロバナール	○
2-ヘキシル-3-フェニル-2-ブロバナール	○
3a, 6, 6, 9a-テトラメチル-3-カヒドロナフト[2, 1-b]フラン	○
3, 7-ジメチル-6-オクタエン-1-オール アセテート	○
メチル(3-オキソ-2-ペニルシクロヘキサメチル)アセテート	○
3a, 4, 5, 6, 7, 7a-ヘキサヒドロ-4, 7-メタノインテノン-5(または6)-イル アセテート	○
1-フェニルエチル アセテート	○
1-[2, 6, 6-トリメチル-1, 3-シクロヘキサジエン-1-イル]-2-ブ'テン-1-オン	○
1-[2, 6, 6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル]-2-ブ'テン-1-オン	○
1-[2, 6, 6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル]-2-ブ'テン-1-オン	○
4-[2, 6, 6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル]-3-ブ'テン-2-オン	○
7-アセチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ-1, 1, 6, 7-テトラメチルナフタレン	○

[0018]

香気性化合物	安定性評価
4-[2, 6, 6-トリメチル-2-シクロヘキセン-1-イル]-3-メチル-3-ブ'テン-2-オン	○
2-フェニルエチル アルコール	○
2H-1-ペニソ'ビラン-2-オン	○
2, 3-ペニソ'ビロール	○
cis-3-ヘキセン-1-オール	○
3, 7-ジメチル-6-オクタエン-1-オール	○
2, 6-ジメチル-7-オクタエン-2-オール	○
3, 7-ジメチル-1trans-2, 6-オクタジエン-1-オール	○
3, 7-ジメチル-1, 6-オクタジエン-3-オール	○
1-ブ-メンタノ-8-オール	○
β-ケンデ'シルアルデヒド'	○
10-ウンデ'セン-1-アール	○
β-1'デ'シルアルデヒド'	○
β-1'ニルアルデヒド'	○
2-メチル-3-(3, 4-メチレンジオキシフェニル)ブロバナール	○
2, 4-ジメチル-3-シクロヘキセン-1-カルブ'アルデヒド'	○
2-メチル-3-(4-terti-ブチルフェニル)ブロバナール	○
4-ヒドロキシ-3-メキシペニソ'アルデヒド'	○
ヘンジ'ル アセテート	○
cis-3-ヘキセン-1-アセテート	○

[0019]

[表4]

香気性化合物	安定性評価
1-フェニル-2-メチル-2-ブ'ロビ'ル アセテート	○
エチル β'チレート	○
3a, 4, 5, 6, 7, 7a-ヘキサヒドロ-4, 7-メタノインデン-5(または6)-イル β'ロビ'オネート	○
3, 7-ジ'メチル-1, 6-オクタジエン-3-イル アセテート	○
7aトアルテ'ヒド' エチル-β-フェニルエチル アセテート	×
9-テ'セナール	×
1, 4-エボ'キシ-p-メンタン	×
エチル-3-メチル-3-フェニルタリシテート	×
1, 8-p-メンタジエン-6-オノン	×
p-メンタン-8-チオール-3-オノン	×
ト'テ'カン ニトリル	×
γ-ノナラクトン	×
2-メチル-フェニル-2-メチル β'チラミド	×
2, 2-ジ'メチル-3-メチレン-ビ'シクロ[2. 2. 1]-ヘプ'タン	×

【0020】表1~4に示すとおり、本発明品で用いることのできる香気性化合物は香料安定性評価が○あるいは

は○であり、安定で優れていることが確認できた。

【0021】実施例2

クリーム状酸性染毛料

成 分	配合量 (%)
橙色205号	0.50
黒色401号	0.20
2-フェニルエチルアルコール	9.00
プロピレングリコール	5.00
エタノール	25.00
セトステアリルアルコール	5.00
ポリオキシエチレン(2EO)	2.00
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	
高分子量ジメチルポリシロキサン	0.80
ジメチルポリシロキサン	2.80
ポリオキシエチレン(3EO)	
ステアリルエーテル	1.00
グリコール酸	1.50
ヒドロキシエチルメチルセルロース	1.10
すず酸ナトリウム	0.05
過酸化水素水(純分35%)	10.00
フェニルアセトアルデヒド	
ジメチル アセタール	0.20
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	4.0

この処方に従って前記の製法によりクリーム状酸性染毛料を調製し、アルミ内覆製チューブに充填し、放置したところ、調製後も長期にわたって安定な芳香を有するこ

とが確認できた。

【0022】実施例3

ジェル状酸性染毛料

成 分	配合量 (%)
黄色4号	0.25
黄色203号	0.25
橙色205号	0.25
ベンジルアルコール	6.00

11	
グリセリン	1.00
ジグリセリン	0.50
エタノール	18.00
メチルセルロース	2.00
リン酸	0.50
キサンタンガム	1.00
フェナセチン	0.10
過酸化水素水 (35%)	10.00
2,6-ジメチル-2-ヘプタノール	0.20
フェニルアセトアルデヒド	0.15
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	4.3

この処方に従って前記の製法によりクリーム状酸性染毛料を調製し、アルミ内覆製チューブに充填し、放置したところ、調製後も長期にわたって安定な芳香を有するこ

とが確認できた。

【0023】実施例4

2剤式染毛剤

成 分	配合量 (%)
(1剤)	
バラフェニレンジアミン	0.20
レゾルシン	0.20
アンモニア水 (28%)	5.80
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.80
ポリオキシエチレンノニル	0.90
フェニルエーテル (6 E.O.)	
オレイルアルコール	2.00
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	9.7
(2剤)	
プロピレングリコール	5.00
エタノール	2.00
フェナセチン	0.10
クエン酸	適 量
過酸化水素水 (35%)	17.00
ジフェニル エーテル	0.20
セドリル メチル ケトン	0.80
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	3.5

この処方に従って前記の製法により2剤式染毛剤を調製し、アルミ内覆製チューブに充填し、放置したところ、調製後も長期にわたって安定な芳香を有することが確認

できた。

【0024】実施例5

1剤式脱色剤

成 分	配合量 (%)
フェナセチン	0.10
オキシベンゾン	0.01
リン酸	適 量
過酸化水素水 (35%)	10.00
ヤーウンデカラクトン	1.00

13

2-メチル-3-(4-イソ-	0.20
プロピルフェニル) プロパナール	
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	2.5

この処方に従って前記の製法により1剤式脱色剤を調製し、ガラス容器に充填し、放置したところ、調製後も長

14

期にわたって安定な芳香を有することが確認できた。

【0025】実施例6

2剤式脱色剤

成 分	配合量 (%)
(1剤)	
アンモニア水 (28%)	7.00
ポリオキシエチレンノニルフェニル	0.50
エーテル (10E.O.)	
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.20
プロピレングリコール	6.00
エデト酸二ナトリウム	0.05
エタノール	2.00
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	10.2
(2剤)	
過酸化水素水 (35%)	17.00
セタノール	0.50
フェナセチン	0.04
塩化ジステアリルジメチルアンモニウム	1.00
リン酸	適 量
7-アセチル-1,2,3,4,	1.00
5,6,7,8-オクタヒドロー	
1,1,6,7-テトラメチルナフタレン	
2,3-ベンゾピロール	0.20
2,6-ジメチル-7-オクテン-	0.10
2-オール	
n-ノニルアルデヒド	0.01
1-フェニル-2-メチル-	0.20
2-プロピル アセテート	
精製水	残 部
合 計	100.00
pH	3.0

この処方に従って前記の製法により2剤式脱色剤を調製し、ガラス容器に充填し、放置したところ、調製後も長

期にわたって安定な芳香を有することが確認できた。

【0026】

フロントページの続き

(72)発明者 梶 真理子

大阪府高槻市上土室2-10-1

(72)発明者 長野 真砂

東京都大田区久が原3-33-14-301

(72)発明者 福増 章夫

滋賀県大津市日吉台3丁目11-6